

# 高尾山報

滝たきの音

精進努力

重ねよと



令和3年8月号



橋本大和尚の御尊影が掲げられた場内

### 橋本照徳大和尚本葬儀

大本山成田山新勝寺中興第二十一世貫首

五月二十二日、大本山成田山新勝寺中興第二十一世貫首橋本照徳大和尚の本葬儀が執り行われ、当山の佐藤御山主が参列致しました。

本葬儀は成田山の光輪閣・光輪の間にて、真言宗長者・真言宗智山派管長・総本山智積院化主第七十二世布施淨慧親下大導師のもと、しめやかに厳修され、真言宗智山派美蓉良英宗務総長、大本山川崎大師平間寺藤田隆乘御貫首、別格本山高幡山金剛寺杉田純一御貫主ほか、宗派内外の諸大徳、成田山講社役員や御信徒など大勢の方が参列され、当山の佐藤御山主も大和尚の在りし日を偲び、懇ろに供養の誠を捧げられました。

## 法の水琴

大正人学講師 高橋秀城

(110)

七月七日の七夕は、夜空の星を眺めになりましてどうか。ちようど梅雨の最中であり、今年も全国的にすっきりしない空模様だったようです。

一年に  
一夜と思へど  
七夕の  
逢ひ見む秋の  
限りなきかな

〔拾遺集〕紀貫之  
一年に一夜の逢瀬と思  
うけれど、織女星（織  
姫）と牽牛星（彦星）  
が出逢う秋は、これから  
も飽きることなく永遠に  
続いていくよ）

たとえ今年は逢えなく  
ても、出逢いの秋は繰り返  
返し巡ってくるでしょう。  
二星の熱い思いは、いつ  
までも冷めることがあり  
ません。

歌の中に「逢ひ見む  
秋」と見えるように、も

とも七夕は、旧暦七月  
七日に行われていた秋の  
行事でした。現在でも、  
仙台の七夕まつりが八月  
七日を中心とする月遅  
れに開催されているよう  
に、本来は秋の気配を  
感じ始める頃に行われて  
いました。

なお、今年の八月七日  
は二十四節気の立秋の日  
となり、旧暦の七月七日  
はちようどお盆中の八月  
十四日に当たります。梅  
雨時期の夜空よりは、晴  
れ渡る確率も高まるで  
しょう。現代の七夕は、  
七月の新暦・八月の月遅  
れ・昔ながらの旧暦と三  
度やってきました。それだ  
け出逢いのチャンスが増  
えたと思えば、喜ばしく  
感じられるでしょうか。  
七夕は、お盆とも結び  
ついていきます。私が住ま  
う関東地方の一部では、

七月一日（八月一日）を  
「盆蓋朔日」と言い、ご  
先祖様があの世から家々  
に向かつて出発する日と  
考えられています。七夕  
の七日は、お盆までの折  
り返し日として「七日  
盆」とも呼ばれ、お墓  
掃除などの盆行事の文度  
を始めます。七夕の期間  
は、ご先祖様を思う時  
節でもあるのです。  
かつて、室町時代の歌  
人でもあり僧侶でもあつ  
た正徹（二三八一〜一四  
五九）は、七夕の夜空を  
見上げながら、そこに仏  
さまのお姿を見ました。

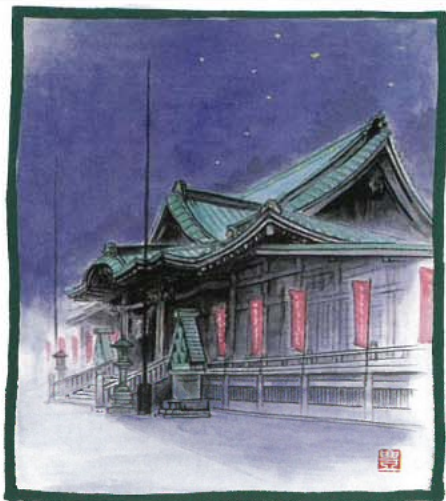
天の川  
浮き木の亀の  
会ひ難き  
御法の影を  
星に見るかな

〔正徹「草根集」〕  
（天の川に浮かぶ浮き  
木の穴に、盲目の亀が入  
るうとするのが難しいよ  
うに、人として生まれた  
お陰で仏法の光を七夕の  
星空に見ることができ  
たよ）  
この歌にある「浮き

しなく続く生死の世界）  
を観じていたかもしれま  
せん。

ちなみに「星祭」とい  
う言葉は、七夕をまつる  
七夕祭を指しますが、  
密教では、この世の天変  
地異や個人の息災延命  
（災難を除き、命を延  
ばすこと）を祈り、星を  
まつって供養する法を意  
味します。星の運行する  
道（星道）は、人々の願い  
を聞き届け、幸せをもた  
らす道でもあるのです。  
仏教と星との関わりを  
めぐっては、次のような  
不思議な話も伝わってい  
ます。

今となつては昔のこと。  
永承元年（一〇四六）に  
焼失した山階寺（今の  
興福寺）が、一年の歳  
月をかけて再建されまし  
た。完成を祝って多くの  
僧侶が呼ばれ、音楽が  
奏されて、再建供養の法  
要が盛大に営まれました。  
さて、その供養の日の  
寅の時（午前四時頃）に、  
いよいよご本尊の仏さま  
をお堂に安置しようと



夜空にも仏様のお姿を感じる（絵・橋本豊治）

木」には、天の川に浮か  
ぶ「筏」も掛けられている  
でしょうか。「浮き木の  
亀」は『涅槃経』などの  
お経に説く「盲亀浮木」  
の故事を踏まえたもので、  
海中に住む目の見えない  
亀が、一〇〇年に一度水  
面に浮かび上がり、やっ  
と浮き木に遇つてその穴  
に入るのが難しいように、  
一仏さまの教えに出会う  
ことは滅多にない」とい  
う教えを喩えています。

現代人にはなかなか理解  
しづらいかもしれませ  
んが、「人身は受け難く仏  
教には遇い難し」という  
言い回しがあるように、  
ただでさえ人として生を  
享けるのは容易ではない  
のに、さらに仏さまの教  
えを学ぶ機会に恵まれる  
のは極めて難しいとい  
うのでしよう。

正徹は、夜空の星々に  
仏さまのお姿を見ていま  
す。盲目の亀がやっとな  
き木に遇つたように、正  
徹もまた仏法の虚空を有  
り難く拝しているのだ  
でしょうか。刻々と移りゆ  
く星の動きに、この世の  
無常や流転輪廻（果て  
にお連れしたかったのだ  
でしょう。古来より日々  
の時刻を計り、季節を定め  
る星として親しまれてき  
た北斗七星は、その願い  
を聞き入れたかのように、  
明かなお姿をお見せに  
なつたものと思われま  
す。妙見大患者は、  
北の北にぞおはします。  
衆生願ひを満てむとて、  
空には星とぞ  
見えたまふ。

吹かないのに、お堂の上  
の方の雲が四・五丈ほど  
暗れ、北斗七星がはつき  
りと現れました。このお  
姿によつて、時刻が寅二  
つ（午前三時半頃）と  
分かり、仏さまを無事に  
お入れできたのです。

空は星を見せるとすぐ  
さま元のように曇ってし  
まいました。それは本堂  
に不思議な出来事でした。  
（『今昔物語集』）  
この話に見える「丑寅  
の時刻」（午前二時から  
四時頃）は「後夜」と  
も呼ばれる時間帯です。  
法要に集った人々は、何  
かとしても一日で最も清  
かな時に、仏さまをお堂

（梁塵秘抄）  
（妙見菩薩（北極星ま  
たは北斗七星）は、北の  
果てにいらつしやる。私  
たちの願いを叶えようと、  
空にあって星としてお姿  
を現している）

「人は亡くなると星にな  
る」という言い伝えもあ  
ります。夜空に瞬く無数  
の星々を、お盆にお帰  
りになったご先祖様と眺  
めたら、星の世界からの見  
晴らしを、こっそり教え  
てくれるでしょうか。い  
つしか私の瞳にも、きら  
めく星眼（正眼）が輝く  
かもしれませぬ。  
（栃木北部教区普濟寺）



飯縄大権現様が前立てに記られる  
甲冑「色々威腹巻」の複製

**困難に立ち向かう覚悟を示す  
甲冑を御奉納頂く**

七月六日、このたびNPO法人八王子城跡三ツ鱗会（金子信二理事長）より、上杉謙信公所用と伝わる「色々威腹巻（上杉神社所蔵）」を再現した甲冑を御奉納頂きました。

この甲冑の兜には、高尾山の御本尊・飯縄大権現様が前立てに祀られております。飯縄大権現様は戦国時代には戦神として、甲斐の武田氏や、高尾山の地元である北条氏からも信仰を集めておりました。

八王子城跡三ツ鱗会では、国史跡である八王子城跡の歴史や文化を次世代へ継承する活動を行っておられます。その中の一つに、手づくり甲冑講座の開催、武者行列でのイベント等への参加があります。甲冑は同会所属の木村隆太さんが一年半かけて制作されました。

佐藤御山主は挨拶の中で、「謙信公は国を守るため、困難に挑むために覚悟をもつて甲冑を身に付けていたのだろう、まさにこの甲冑は覚悟を示す証なのだから、その精神を後世に伝えていく」と、お話されました。

八王子城跡三ツ鱗会の皆様におかれましては、重ねて御礼申し上げます。



佐藤御山主と「NPO法人八王子城跡三ツ鱗会」の皆様

一文字一文字に心を込めて  
**第三十九回 高尾山写経大会**

七月二十五日（日）、梅雨明けの高尾山で第三十九回高尾山写経大会が有喜園大広間に於いて開催され、二十五名の方々が参加されました。

参加者は写経大会の開会式に際し、山内の僧侶と共に般若心経を誦誦し、その後一文字一文字に仏さまを感じて丁寧に写経されました。

また、昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症予防の為、自宅で写経して郵送で高尾山に納める在宅写経も合わせて実施し、約百七十名の方々が参加されました。

写経大会後には、当日書写頂いた写経と、お送り頂きました写経の納経式が、佐藤山主御導師のもと厳修され、御本尊飯縄大権現様御宝前に、お供えされました。

納経式では、皆様の諸願成就と共に、一刻も早い新型コロナウイルス感染症の終息を、御祈念申し上げます。



皆様の写経をお加持する佐藤御山主



有喜園で写経大会が行われた

**盆迎え火 先師墓地参り**  
七月十三日



**高尾山お施餓鬼大法要**  
七月十二日 於・山麓不動院



# 高尾山年代記

歴代山主の事跡をたどる

明治大学博物館 外山 徹

20

## 十一世祐清 寺院本末関係の形成

天保四年（一八三三）の由緒書は高尾山一〇世堯秀の命日を慶安元年（一六四八）六月二五日としている。堯秀在任中には伽藍が再興され、將軍徳川家光から寺領七五石が領知される手筈も整えられた。

### 二世祐清

晴れて領知朱印状を受けたのは二世祐清である。在任期間の短い祐清の事に係る史料は乏しいが、承応二年（一六五三）四月から七月にかけて長谷寺小池坊良誉から授与された伝法の証書数点が伝わっている。小池坊を道場としているので、山主在任中に奈良へ修学に出ていたことになる。それにしても、この間

は年代的にあり得ないことなので、朱印状交付の要請を主導する立場にあり、なおかつ「隠居」たり得るのは堯秀以外にはない。すると、すでに山主の座は祐清に譲られていたことになる。祐清は門末の相模国高座郡相原村（相模原市緑区）華藏院住職から転住したとされている。長谷寺への修学が山主在任中であつたことは、印信にある「武州多摩郡高尾山有喜寺第十一代之資」の文言にも表れている。

この醍醐の門末にある寺院の住僧が長谷寺で印信を授かることをどう考えるか？ 後の一三世賢俊の履歴が参考となる。賢俊は二世堯永から高尾山を道場に伝法を受け、その後色衣免許願いを提出しているが、その文面には本寺を醍醐寺とし、智積院（留学の経歴を記している。このことは、修法の密儀を継ぐ「事相」と、教義を修学する「教相」の別によつても

複数の師弟関係が存在することを示す。

新義真言宗の学問所は智積院が有力で、長谷寺はそれに次ぐ地位にあつたが、五代將軍綱吉の時に長谷寺の系譜にある護持院隆光が側近として力を持ったことから、智積院との間で配下の寺院を巡つて競争する状況が生じた。その中で、高尾山薬王院は智積院と長谷寺の両山入り交じりの寺院として記録に残る。実際、元禄五年（一六九二）には門末の日光寺住職快春が長谷寺へ往山するための手形が作成されている。

### 寺院本末関係の形成

幕府は寺院法度を発して仏教界を統制したが、その手法は、僧侶の自分を修学として武力の保持を禁ずる一方、有力寺院には任職の任免に関する権限など末寺支配の特権を付与して懐柔するものだった。その本寺・末寺の関係は行政上の支配

の回路として利用する意図であつた。寛永九年（一六三二）には全国の寺院に末寺の届け出が命ぜられたが、その結果、作成された「諸宗末寺帳」からは、未だ本末関係が形成途上にあつたことがわかる。

先の高尾山主三代の動向に見られたように、この時期の本末関係は師弟関係に委ねられた複線的な様相を示していたが、支配の回路としては総本山から最下位の村の寺院までが単線的な支配被支配の関係となる必要があつた。実際、この時期、本末の編成が紛糾する事態は頻発していた。

さて、行政の回路としては、寺社奉行が総本山（本寺）を介して指令を出すわけではなく、その配下である中本寺（田舎本寺）の上に宗派ごとに「触頭」が設置された。薬王院の場合、醍醐派の中本寺として一七ヶ寺の末寺・門徒・又門徒を擁したが、法流上は無量

寺院による、行政上は江戸の触頭寺院を介する、二重の支配を受けた。触頭とは、文字通り、「御触れ」を触れ出す役割の意味で、触頭↓中本寺↓村々の寺院という経路で法令や指示が伝達され、諸届や願書が受理された。新義真言宗の場合、江戸愛宕の真福寺、同門福寺、本所弥勒寺、湯島知足院（後、根生院に交替）が務め、江戸四

箇寺と呼ばれていた。

### 薬王院の門末

寛永一〇年（一六三三）の「諸宗末寺帳」は有喜寺を松橋院家（醍醐無量寿院）の末寺と記すばかりで、配下の記載がない。この段階は、村レベルの寺院の本末が確定する過渡期と言う評価もされているが、薬王院門末の形成はどのような状況にあつたのだろうか。

### 祐清阿闍梨

授印可

金剛東大摩都婆印

編命之

監裁東外縛立印

其（月）丁亥

右杖和品長谷寺小池坊道場授

許可准頂單

兼應二、三年四月五日

傳授大阿闍梨法印良譽

授手祐清

11世祐清が長谷寺・小池坊良誉から授けられた印信（写真提供：法政大学図書館）

相模原市橋本方面の寺院との関係は中世の長井氏の所領分布との関連を推測したが、上溝村安楽寺、下九沢村金泉寺はすでに寛永九年付の年貢書上が薬王院文書に残り、この文書の作成は幕府による本末取調と関わるだろう。小山村連乗院、相原村華藏院は、それぞれ慶安二年（一六四九）・三年と文書が残るので、やはり早い時期からの本末関係だつたのだろう。

地元ではJR高尾駅の北側、京玉高尾駅の南側、高尾山麓方面にかけて九ヶ寺の分布がある。寛永九年の年貢書上が残るのは下長房村宝蔵寺、同村安楽寺、上長房村金南寺の三ヶ寺。上柵田村大光寺、下柵田村真福寺は慶安二年の段階で確認できる。

もう一ヶ所相模原市の旧城山町地区にも四ヶ寺が分布する。その中で、中沢村普門寺は正保五年（一六四八）付の寺領朱印状の願い書が残っている。

そして、祐清在任時の承応四年（一六五五）付で一四ヶ寺の連判状が残る。この内、後々門末に確認できるのは下柵田村高栗寺、上柵田村安養寺、旧城山町東福寺を加えた二ヶ寺。文書は普門寺の進退をめぐるものなので、署名していない普門寺を加えて一三と、この段階でおおよその本末関係が形成されていたことになる。残る上柵田村の実相院・吉祥寺、旧城山町地区の慈眼寺は延宝九年（一六八二）の「宗旨御改帳」に寺名があり、滝清寺は元禄五年（一七〇二）に門徒取り立ての願い書が出ているが、元々普門寺の門徒だつた。なお、狭義の「末寺」「門徒」の違いは葬祭を執行する権限の有無だが、門末寺院の「末寺」格への昇格は正徳年間（一七二一〜一七二六）以降、江戸中期のことになる。

### 祐清の事績

同時代の史料の裏付け

はないが、天保の由緒書によると、祐清は慶安三年\*に四代將軍家綱就任にともなう代替御札に参列。翌年の家光薨去にあつては、上野寛永寺にてとなろるか、納経・拝礼をおこなつたという。これらは、寺領の領知朱印状を得て御朱印寺院としての格式を得たが故のことであつただろう。

祐清の命日は明暦元年（一六五五）十月二五日とされるが、長谷寺小池坊良誉から印信を授かつてからわずか二年後のことである。老境において修学に出たとも考えにくく、早すぎる遷化ではなかつたか。

\*実際の家綱將軍就任は慶安四年

《参考文献》 柳田良洪『真言密教成立過程の研究』（山喜房佛書林、一九六四）、真上隆俊「高尾山の歴史―薬王院の門末とその住僧」（『多摩文化第二四号武州高尾山その自然と歴史』多摩文化研究会、一九七四）

# 「タカオネ」開業

## 京王線高尾山口駅前の宿泊施設

七月十七日、京王線高尾山口駅前に体験型ホテル「タカオネ」がグランドオープンし、そのオープニングセレモニーの一環として開業祈願祭が行われました。

このホテルは、ただ日帰りで高尾山を登るだけではなく、ホテルを拠点として高尾山エリアでの遊び方・過ごし方・泊まり方を提案する「活動ホテル」をテーマとしております。

祈願祭では、ホテル中庭で佐藤山主御導師のもと柴燈大護摩供が厳修され、関係企業の代表者ご列席のもと、利用者安全などの諸願成就を一心に祈願されました。



ホテル中庭で行われた柴燈大護摩供

## 厄年を過ぎた御信徒の皆様へ

六十才の厄年を過ぎたなら

一年二年を

七十才を過ぎたなら

暑さ寒さを

八十才を過ぎたなら

春夏秋冬を

九十才を過ぎたなら

一日二日を

気を付けられ

日々を大切に

圓滿にお喜下さい

当山では皆様の

(身体健全)を祈念して  
(寿命長久)を祈念して

福壽圓滿の

御護摩を

お申し受け致しております。

## 高尾山の昆虫

### ヤブヤンマ

高尾山は各種トンボや大型のヤンマの宝庫ですが、今回はヤブヤンマを取り上げます。ワイルドな名前を持ち、ヤンマの中でも大型種に属し、夕刻に高い所を飛びながら小昆虫を捕食する姿を見つめることができます。



小学生の頃、図書館にあった図鑑で本種を見つけた時は、藪と付くその名前からして森林性の種であるかと想像し、図示されていた標本も渋く野性味を感じて、なかなか出会えないヤンマだと当時は思いました。

今から思うとこの標本はメスであったようで、成熟したオスは複眼の色が鮮やかなコバルト色で腹節の斑紋も青緑色を帯び、実に綺麗です。

未成熟のオスは複眼の色が褐色で腹節の斑紋も黄色味が強く、メスにやや近い雰囲気があります。

森林性のヤンマと思いついていた本種ですが、都市部の緑地にある公園の池等で、メスが産卵しているところを見かけるケースが少なく、名前とは裏腹に藪がない所でも出会えることができる、美しい種だと再認識することができました。

(文松島 孝 撮影沼田 健次)

# いけばなの心 ⑱

華道教授 佐藤 宗明

今回の作品は蓮を使つた生花正風体です。蓮は泥の中からまっすぐ伸びたち、汚れる事なく綺麗な花を咲かせる事から、この上なく清浄な物の象徴ともされます。仏教と縁の深いお花で、お寺にお参りにいらつしやると、各所で見かけると思います。

日本での開花時期は大抵七月八月頃。その時期には観蓮会が開催される所もあり、多くの人に親しまれています。生花を生けようとする

と、多くの花葉が必要となり、それらが揃えられる機会にはなかなか巡り合うことができません。今回はそんな機会があり生けることができましたのでご紹介させていただきます。

池坊では元々、綺麗な

花だけではなく、蕾や枯れた葉も使い植物の特徴を表します。さらに蓮の生花を生ける際には特別な心構えが必要とされています。この作品でも多くの花や葉が使われていますが、この花

や葉で三世(過去・現在・未来)を表現しています。蕾や巻葉(硬く巻いている葉)、撞木葉(撞木の様な形をした葉)、浮葉(水面に浮いている葉)は未来。開花や開葉は現在。蓮肉や朽葉は過去を表現しています。これらを使い、一瓶を整えた姿は悟りの因となるとも伝えられています。※撞木・鐘を撞く時などに使う丁字型の法具



花材…蓮

## 折り折りの記 ⑭④

波多野 重雄

### 高尾山に翩翩翻る五輪旗

高尾山頂五九九mに、五輪旗が早春より棚引いている。大平台より絶景富士山を始め大山、関東の山々を一望する。

東海自然歩道は、昔から多くの詩歌に詠まれ多くの人々の参詣的となった。高尾山薬王院の崇高な寺院を出発点とし、大阪の箕面までを結ぶ。

五輪旗を高尾山頂に掲げ、今年のオリンピックの成功を祈っていると同時に、五輪旗を巡り響けが氣勢を挙げています。再び五輪旗を掲げ祝福することはあるまい。世紀の五輪大会選手諸君の活躍を期待し、併せて大成功を祈念する。

(高尾山健康登山の会会長)

## 世界市民

### 佛教徒 勞平 清盛

### 救済頼朝 義経 家

### 佛教傳來 快速 訪

### 日本列島 民族 多

「一寸の 厚木市 荒井 一雄 虫にも五分の魂」と

教られたる教迹如来様

世界市民(コスモポリタン)

熱烈なる佛教徒・平清盛母子は

戦死せる敵將の息子の

源頼朝・義経の家系(命)を

絶つことが出来ず…

「佛教傳來」が速く訪れば、

日本列島にも「殺生禁断」の

精神が拡がり、先住民族も含め

(今日のスリランカの如く)

多くの異民族・多文化・他宗教が

平和に幸福に

共存共栄を営まん…



# 令和三年七月豪雨被災者の皆様に謹んで御見舞い申し上げます

土石流の被害を受けた静岡県熱海市をはじめ、鳥取県、島根県、九州地方など、日本各地で発生した集中豪雨により甚大なる被害を受け、被災された多くの皆様に謹んでお見舞い申し上げます、災害により犠牲となり、お亡くなりになられた方々の御冥福を、心よりお祈り申し上げます。

そして、一刻でも早い復興と、皆様に平安なる日々が訪れますようご祈念申し上げます。

大本山 高尾山 薬王院

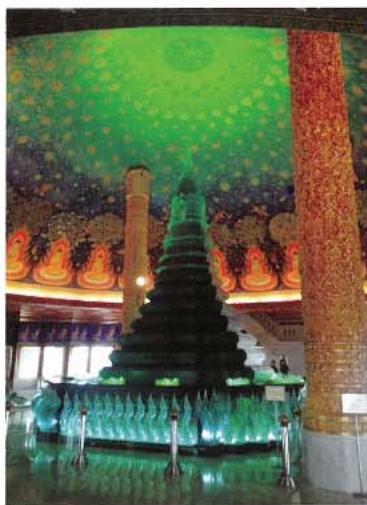
参拝に来た。  
看板の通りに階段を上るのが意外に苦しい。やつとたどり着いて現れた緑の塔は、緑硝子製の仏塔で、ホールは極楽浄土のようである。左右からは日本語も聞こえてくる。周りの通路からテラスに出ると、周囲三百六十度視界が開け、隣の寺院の大仏や運河、先程見た造立中の大仏などが見えて、大変に気持ちが良い。

この寺院で修行されたこともある。今や佐々井師は、インド仏教会の第一人者として、活躍されている。暫くこの儘眺めていたかったのだが、時間が詰まっていたので来た道を戻り、途中の市場では魚醤の良い香りがするパッタイ（米粉麺の炒め物）や蜜柑の果汁を楽しみ、バスでホアランポン駅迄戻った。

出ていると耳にしたが、今回は基本の行き方に従った。  
ワットパクナムを参拝するようになったのは、高尾山薬王院の仏舍利塔内に、ワットパクナムより頂いたお釈迦様の胸像があるので、一度そのお寺に行ってみたくて思ったからである。

はお釈迦様の真身骨（仏舍利）もあり、こちらはバンコクの隣にあるナコンパトムのワットプラバトムより頂いた。こちらの寺院も三度参拝したこともあるが、今回は都合で行

けず残念である。  
ワットパクナム、そしてワットプラバトム、この二つの寺院は薬王院とも関係があるので、曼谷を訪れた時には、必ず行くように心がけている。



大塔最上階の緑硝子製仏塔

# ワット・パクナム参拝記

教務課 叶内 泉

令和元年十一月五日、八時三十五分成田空港発のエアアジアタイで、泰国は曼谷へ行った。ドンムアン空港内で、あらかじめ日本で予約しておいたマンシヨンの鍵を受け取り、充電コーナーで休憩した。

（AIを活用した路線バスが入って来る所だったの、これに飛び乗った。このバスは国内線の空港内も回って旅客を拾って行くので、空港を出る時には満員で、始発から乗っていたおかげで、エアコンで涼める喜びに浸った。



国鉄ホアランポン駅 駅舎内

今回は曼谷市内迄どうやって出るかなと、行き方が色々あるので考え乍ら、そろそろ行くかとロビーに出ると、AIバス

車掌がお金を乗客から貰う為に、人を掻き分け、トランクを跨ぎ跨ぎ、笑い乍ら来るのが、何時も

印象的である。終点迄行く積もりが途中で車掌に下ろされ、「ナンダヨー、モー」と思い乍らも辺りを見ると、BTS（バンコク・スカイトレイン）と地下鉄の乗り換えバス停だった。

暑い人混みの中を再び移動するのは体力を使うので、この儘BTSで向かうことにした。BTSのモーター車は予想以上の混雑で、相変わらず券売機はお札を使うことが出来なくて、有人窓口で両替して貰う様で、こ

の有人窓口も、券売機も長蛇の列で、気が長くないとやって行けない。月台（プラットホーム）に出ても沢山の人で、来た電車にも満員で乗れないのではないかと心配したが、何とか乗れたのでアソーク駅で降りた。予想より遅くなっていたので、バイクタクシーでマンシヨン迄送って貰った。

翌日、朝方ゆっくりしてBTSでホアランポン駅に向かい、セントラルホテル前より四番バスで終点迄行き、道なりに五分程進んで、見慣れたワットパクナム寺院域に入った。寺域では造立中の大仏の姿も見られた。今回は白い大塔内の上階の様子を確認するために



ワットパクナムの白い大塔

おはなし散歩道

ヒマラヤ杉ひと枝

八王子市 池田美絵

パートの仕事が終わり、自宅のある団地の中庭を通ると、作業服を着た数人の男性がいるのが目に止まりました。

(なにが工事でもあるのかしら)。でも、さほど気に留めないでいると、数日してまた、作業服の男性が中庭にいました。中庭に一本植わっているヒマラヤ杉の、幹の太さを測っているのです。

「この杉、どうかさされるんですか?」。私は、思わず尋ねました。

「今度この木を伐採することになったんです。緊急時の避難路の確保です」。

私は驚いてしまいました。たしかに緊急時には木がないほうがいいでしょう。そのことについて異論はありませんが、内心ショックも感じました。

この杉は私がここに越してきた三十年前にはすでに植わっていて、今では四階の屋根を越しそうな勢いで成長しています。春になると薄緑色の新芽が吹き、夏は濃い影を作り、秋には松ぼっくりを落とし、冬にも常緑の堂々とした立ち姿で生命力を示してくれました。

そして、私自身もこの杉の下で近所さんとおしゃべりをしたり、娘が小さかったころは木の下で遊んだりした思い出があります。

当たり前のように今までそこにあり、同じ時間を過ごしてきたヒマラヤ杉。私はパートの行き帰りにながめては、「寂しいなあ」とつぶやいていました。

そして、いよいよヒマラヤ杉の回りにロープが

張られました。数日後には伐採が始まるそうです。その日は朝早くから作業の人たちが、木の回りに集まっていました。こまかな枝をチェンソーで落とすと、甲高い金属音の中庭に響きます。午後になるころには、トラックスが木の横に止められ、丸太に切ったヒマラヤ杉を積み始めました。

これで見納めだと思っただけで、自宅の窓から見守っているだけではあきたらず、地上に下りて伐採の様子を眺めていました。(お別れね。今までありがとう)。心の中で語りかけると涙があふれてきました。

その時でした。作業中の一人の男性が私のところに歩いてきて、「ヒマラヤ杉、お好きですか?」と声をかけてきました。

「はい。ここに越して来てからずっとこの木があったので、思い出深いんです」と応えると、「ちょっと待っていてください」とその男性は言い、木の



下から小枝を数本拾って再び私のところに駆けてきました。

「はい、これ」。枝を差し出されたので、私は驚きとうれしさで胸がいっぱいになりました。

数日後にはヒマラヤ杉があった場所はきれいに整地され、跡形もなく

(挿し絵・小出 茂)

高尾山物語 40

大杉原



絵・橋本豊治

かつての大杉原

昭和の初め頃までは、現在よりも多くの杉が鬱蒼と繁り、日中であっても薄暗く感じるほどであったという話が残っており、多量の巨木が倒れてしまいました。

浄心門を潜り、神変堂を過ぎると、道中は男坂と女坂の左右二つの道に分かれ、坂の頂上で合流します。

そこから四天王門までの道は、樹齢七百年以上と推定される杉が立ち並び、「大杉原」と呼ばれております。

この大杉原は東京都の天然記念物に指定されており、特に、「天狗の腰掛け杉」は、高尾山を守る天狗が杉に腰かけて参拝者を見守っていると伝えられており、杉並木の中でもひととき目を引く巨木です。

大杉原の道沿いには、杉苗奉納者の芳名板が板塀のように連なっており姿が見えます。

杉苗奉納とは、古来より高尾山の御信徒が、自分のお願いが成就した時に感謝とお礼の意味を込め、苗木を奉納するという習慣です。お杉苗奉納をされた方々の御芳名は翌年に一年間掲示させて頂いております。

いろは

天狗の落し文 ⑦



と 堂々めぐり時間のむだよ 自分の考えしつかりと

堂々めぐりとは本来、僧侶や御信徒が祈願のため、寺社のお堂を何度も回って祈りを捧げることです。現在では同じ行動や議論を繰り返して、結局結論の出ない、という意味で使われています。

そもそも集団でする会議にせよ、個人で思考するにせよ、その目的は何かを決定するということです。漫然と始めるのではなく、事前に情報を整理して、自分なりの考えをまとめておくことが大切です。



# 高尾山健康登山親睦会 高尾山清掃



高尾山健康登山親睦会では、毎年、波多野重雄会長(写真右より四人目)他有志の皆様が集まり、ゴミ袋を片手に高尾山を清掃しております。

七月十日、一行は信徒休憩所にて合流し、その後登山道に分かれてゴミ拾いを行いました。

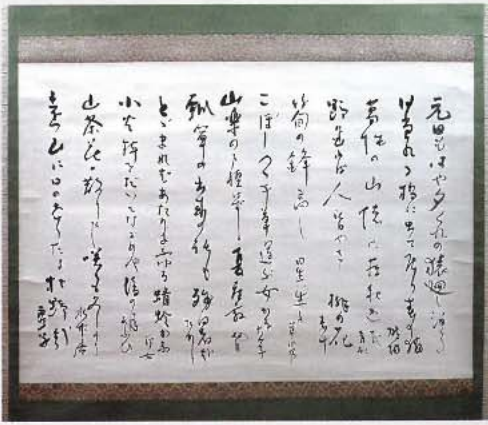
波多野会長は「毎年ゴミ拾いをするけど、きれいになると気持ちが良いもんだよ」とお話をされました。

# 院内散歩④

～薬王院の展示物～

ホトトギス系の俳人による十二人合作  
「俳句十二ヶ月」

野村 伯月	岡田 歌陽	阿波野 青畝	高野 素十	中村 草田男	星野 立子	血井 旭川	松本 たかし	中村 汀女	本田 あふひ	赤星 水竹居	高浜 虚子
-------	-------	--------	-------	--------	-------	-------	--------	-------	--------	--------	-------



元日... 山... 俳句... 高野素十... 中村草田男... 星野立子... 血井旭川... 松本たかし... 中村汀女... 本田あふひ... 赤星水竹居... 高浜虚子

# 高尾山修行場めぐり 5

## 十善戒めぐり

有喜苑の仏舎利奉安塔周囲には、先月ご紹介しました「百観音御砂踏霊場」があり、更にその内側には「十善戒めぐり」の道があります。

この道には、それぞれの人が持つ煩惱、悩みごとを消して、迷いのない清らかで正しい生活を送って行く為の、大事な十個の戒め、十善戒が刻まれた十の門があります。門を潜る時には、次の事を心に留めてお参りしていきましょう。

- 不殺生戒 生きとし生けるものの、生命を奪うな。
- 不偷盗戒 与えられていないものをうばいとるな。
- 不邪淫戒 情欲を欲しいままにしてはいけない。
- 不妄語戒 嘘と偽りは言わない。
- 不綺語戒 口先だけで心の無い言葉は使わない。
- 不悪口戒 悪口を言ったり、ののしつたりしない。
- 不両舌戒 二枚舌、筋の通らないことを言わない。
- 不慳貪戒 欲張りすぎないようにする。
- 不瞋恚戒 心を平らに耐え忍び、怒ったりしない。
- 不邪見戒 道理を無視して考えないようにする。



# 高尾山 季節散歩

健康登山者投稿作品

## 季節の写真「紫陽花とお大師様」

高岡 輝幸 様



暦の言葉  
「七十二候」  
綿柎開  
「わたのはなしべひらく」  
八月二十二日〜八月二十七日頃  
「柎」とは、花の萼(花の外側の部分)という意味です。つまり、ハイビスカスに似た綿の花が枯れ、萼が開くと中の種を包んだ白い綿花があらわれます。  
この綿花から種を除いて木綿糸や布地を作り、種は食用油となります。

## 今月の風物詩 雀蜂

蜂の中で特に大型の癡猛な種であり、加えて強い毒をもつため危険な昆虫と知られております。特に黒い服や、香水の匂いに反応すると危険度が増します。高尾山でも夏から秋にかけて営巣するため、御来山される方々は十分お気を付け下さい。

## 一步一步煩惱滅除

百八の階段を昇り、悩みや煩い事を取り除きましょう

## 百三段 梁ばかり追わない梁は逃げてゆく

手段を選ぶのであれば梁の方が良い。そう思う人多いことでしょう。でも、そんな上手い話が無いことも御承知のことでしょう。梁な道をずっと選んでいくと、いつかつべ返しがきて、困難な状況に陥ってしまうものです。

## 健康登山の皆様へ

### 高尾山報投稿の御案内

御護摩受付所では、皆さまの「健康」に関する思いや思い出・習慣、又は「健康登山」を通じて経験した出来事などの、心温まるお話を聞かせて頂いています。

そこで、皆様のお話を多くの方々に届けたいです。多くの皆さまにお届けできますように、御護摩受付所に「投稿箱」を設置致しまして、皆様から投稿頂いたお話を、高尾山報に掲載させていただきます。

※ 投稿頂きました作品は全て掲載できるような努めますが、当山の判断で掲載しない場合もあります。また、多くの方に投稿頂きました場合、掲載までお時間を頂く場合がございます。すことを御了承下さい。

健康登山者限定の記念品など交換もできます。

## 「高尾山健康登山の証」のお勧め

年間約二百八十万の人々が訪れ、「世界一登山者の多い山」として知られている高尾山。登山者の皆様の励みになれば、との思いから平成十一年から健康登山を始め、いまでは約五万人の方々が会員となられております。

期限はございませんので、御自分のペースで楽しみください。

また、一冊に付き二十一回スタンプを押すページがあり、終了したことを満行と言います。満行されますとお祝い膳として、精進料理の御接待や健康登山者限定の記念品など交換もできます。



帳面……七百円  
スタンプ……百円

# 人々の願いを照らす 灯りの巡礼

真夏の高尾山では、八月二十一日に「灯りの巡礼」と称し、夕暮れ時から参道の春日燈籠に灯りが点されます。また有喜苑では、全国の医療従事者に感謝の念を届けるため、仏舎利塔を青く照らし出す「ブルーライトアップ」を行い、御信徒の皆様から御奉納頂きました紙燈籠を献灯致します。

二十一日には夕闇の有喜苑において、午後五時半より柴燈大護摩供が厳修され、医療従事者の皆様の身上安全、身体健全並びに罹患者平癒を、一心に御祈念させていただきます。



青く照らされる仏舎利塔の前で柴燈大護摩供が厳修される

## 日程変更のお知らせ

先月号でご案内いたしました、「灯りの巡礼」は、感染症による緊急事態宣言を受け、左記の通り日時を短縮して開催致します。

変更前 八月二十一日

変更後 八月二十一日

尚、柴燈大護摩供は二十一日の午後五時半より厳修致します。

二十二日に御来山を検討頂きました皆様には、大変申し訳ございませんが、何卒ご了承の程、宜しくお願い申し上げます。

# 紙燈籠奉納のご案内

高尾山有喜苑で執り行われる「灯りの巡礼」にて、本年も八月二十一日に紙燈籠を献灯させていただきます。全国の医療従事者の皆様に感謝の念を届けると共に、御信徒の皆様方の願いを紙燈籠に込めて夕闇を照らし出します。

紙燈籠には奉納者名と願い事を記して、諸願成就を御祈念致します。奉納を御希望の方は、手紙又はFAXにてお申込み下さい。ご不明な点等ございましたらお問い合わせ願います。

**特別燈籠** 一万円（限定一〇八挺）  
燈籠 二千元

※特別燈籠をお申込みの方には柴燈大護摩供の際、お名前の読み上げを致します。

## お申込み方法

お手紙又はFAXに、郵便番号、住所、氏名、電話番号及び願い事を明記の上、お申し込み下さい。

〒一九三・八六八六

八王子市高尾町二七七

高尾山薬王院 信徒課

灯りの巡礼係

Fax 〇四二・六六四・二九九

締切り 八月十八日(水)



紙燈籠で描いた「感謝」の文字

## 高尾山内八十八大師巡拝のご案内

多くの方が参拝できますよう左記のようにつづのグループに分け、途中(山上十二丁目茶屋前第十七番札所)で合流し、いっしょに巡拝致します。

※ケーブルを利用する場合、代金は自己負担になります。

**日程** 十月十二日(火)  
**行程** 山麓不動院↓蛇滝↓仏舎利塔↓本堂(護摩修行)↓坊入(昼食)↓下山(二号路)↓不動院着(献灯式)↓解散

**参加費** 五千元(昼食代、保険料含む)

**集合場所** 山麓不動院(八時集合)

**申込方法** ハガキに郵便番号、住所、氏名、生年月日、性別、電話番号を明記の上、左記までお申込み下さい。

**締め切り** 十月四日(月)

〒一九三・八六八六  
八王子市高尾町二七七  
大本山高尾山薬王院 八十八大師巡拝係  
\*申し込み締切り後、請け書行程表・持ち物等をお送り致します。  
\*尚 新型コロナウイルス感染症の状況により行程等に変更がある場合があります。

## 第百十八回 信徒峰中修行会のお知らせ

本年十月九日(土)に予定されております「信徒峰中修行会」につきましては、現在実施を前提として検討しておりますが、新型コロナウイルス感染症の流行が未だ終息していない状況を鑑み、日程及び修行内容を決めかねている状況でございます。

そのため、ご参加をお考え頂いている皆様にはご迷惑をお掛け致しますが、今しばらくお待ち頂きたくお願い申し上げます。

詳細につきましては、高尾山報九月号及び、薬王院公式ホームページにて発表させていただきます。御不明な点はお問い合わせ下さい。

高尾山信徒峰中修行会係  
☎〇四二・六六一・二二五

## 訂正とお詫び

先月号九ページ上段にあります、本文四行目の「山中近昌」様の「昌」の文字を「晶」と訂正させていただきます。

謹んでお詫び申し上げます。



高尾山報助成金志納者 御芳名(順不同・敬称略)	足立区 中山 恵司
富里市 森 照森	佐倉市 橋本 尚美
八王子市 小林 恵己子	八王子市 櫻崎 ヨシ子
深谷市 加藤 隆	川崎市 大山 藤夫
小平市 池田 順子	練馬区 稲毛 英子
京都市 小暮 徹男	相模原市 中里 暉久江
東村山市 福島 光子	久喜市 木伏 義一
八王子市 地藤 健史	小平市 福島 秀雄
天野 章雄	茅ヶ崎市 西村 千奈子
永井 寛子	相模原市 金田 桜佳
八王子市 道雄	八王子市 串田 展子
関 安公	足立区 小関 佳子
町田市 坂口 粧麗	千曲市 柏原 てる子
新座市 彰山 千恵子	渋谷区 金子 玲
八王子市 平 林子	高尾山健康登山者一同

毎日の  
お護摩奉修時間

(4月15日～10月31日まで)

午前5時30分

// 9時30分

// 11時00分

午後0時30分

// 2時00分

// 3時30分

ご講中・団体等御相談  
下さい。

令和三年盛夏



暑中お見舞い  
申し上げます。



登山だより



大般若経を守護する十六善神の図

神徳報謝百味飲食供  
御志納のおすすめ

当山では、御本尊飯繩大権現様の日々の御加護に感謝するために、御縁日である二十一日に、沢山のお供物を捧げて、大般若経六百巻を転読し、供養申し上げる法要を執り行っております。

皆様の御志納を受け付けておりますので、ご希望の方は問い合わせ下さい。

尚、法要終了後に大本堂にて百味の御札を授与致します。

また、当日参加できない方にはお札の郵送も受け付けております。

毎月二十一日 午前九時(於大本堂)  
御志納金 一口 三千元以上

九月行事日程

一日～七日

聖天秘供(聖天堂)

六日、十八日、三十日

弁天様御縁日

八日

仏舍利詣り(仏舍利塔)

十二日、十二日

聖天堂開扉法要

二十二日

飯繩様御縁日

神徳報謝百味飲食供

二十五日

月例写経会

二十六日

(十三時半麓不動院)

二十七日

高尾山とんとんむかし

「語り部の会」

二十七日

(十二時半山麓不動院)

御詠歌勉強会

二十八日

(十時山麓不動院)

奥之院開扉法要(十時奥之院)

高尾山薬王院ホームページ

<http://www.takaosan.or.jp>

発行所

東京都八王子市高尾町2177

大本山

高尾山薬王院

郵便番号 193-8686

電話(042)-661-1115(代)

FAX(042)-664-1199

発行人 菅谷 秀文

編集人 渋谷 秀芳

印刷 ヒラツカ印刷社

毎月1回1日発行

1部50円